

事業・生産活動

企画交流部

1 シンポジウム・成果発表会等の開催

(1) 平成30年度第5回「にいがた夢農業・人づくり事業」共通講座シンポジウム

将来の農業をリードする企業的農業経営者の育成をめざし、県内の農業系大学・専門学校の共通講座として、地域でがんばる農業者の具体的な取組みについて幅広く学ぶことを目的に開催した。なお、本シンポジウムは第15回FCシンポジウムを兼ねて開催した。

○主催；新潟大学農学部、新潟県、新潟農業・バイオ専門学校

○日時；平成30年10月31日（水） 12:55～16:20

○場所；新潟大学 中央図書館 ライブラリーホール

○対象；新潟大学農学部・新潟県農業大学校・新潟農業バイオ専門学校の学生及び教職員、県内農業研究・普及機関、FC情報交換会参加機関 等

○参加者；189名（新潟大学農学部学生・院生128、新潟大学農学部教職員14、新潟県農業大学校学生13、新潟農業バイオ専門学校学生23、学外機関11名）

○テーマ：“21世紀農林業・越後から発信！”

「地域でがんばる農業者からのメッセージ」

コーディネーター；新潟大学農学部 伊藤亮司、栗生田忠雄

講演1「多品目・多品種栽培と6次産業化の取組みによる通年観光農園の実現 ～平29農林水産大臣賞・日本農林漁業振興会会長賞受賞～」

（有）白根グレープガーデン 代表取締役 笠原節夫 氏

講演2「大規模水稻農業経営の新たなビジネスモデルをめざす ～平29未来につながる持続可能な農業推進コンクール農林水産大臣賞受賞～」

（有）穂海農耕 代表取締役 丸田 洋 氏

講演3「有機栽培への挑戦 ～生き物とともに～」

夢の谷ファーム 代表 石塚美津夫 氏

講演4「日本一おいしいコシヒカリを消費者に届ける ～米・食味分析鑑定国際コンクールでダイヤモンド褒賞受賞～」

（有）笠原農園 代表取締役 笠原勝彦 氏

(2) 2018年度FC成果発表会

基調講演として、「農業気象災害防止に役立つ気象情報の活用」について学び、さらにフィールドを舞台に取り組んだ研究成果を紹介し、フィールド研究への理解を深めるとともに、関係部署との連携強化を図った。

○日時；平成30年12月21日（金） 13:00～16:30

○場所；農学部 C110 講義室

○対象；新潟大学農学部学生及び教職員、FC情報交換会参加機関 他

○参加者；85名（学生・教職員66、学外機関19名）

〔基調講演〕

「農業気象災害防止に役立つ気象情報の活用 ～特に、高温・少雨、日照不足、台風・フェーン、豪雨～」

新潟地方気象台 調査官 北畠 修二 氏

〔成果発表〕

- ① 「米・食味分析鑑定コンクールについて」
高橋能彦 (FC 耕地生産部)
- ② 「異なる灌漑方法が水稻生育におよぼす影響—UAV を用いた水稻生育の把握—」
吉田和樹 (自然科学研究科 環境科学専攻 流域環境学コース M2)
- ③ 「イネにおけるバイオマス突然変異体の形態的特性の解析」
乙坂息吹・末野穂乃香・根津直弥・西村実 (農業生産科学科作物学研究室 4 年)
- ④ 「収穫時期と着色度がイチゴ'越後姫'の成分に及ぼす影響解析」
野村 萌 (応用生物化学科 4 年)
- ⑤ 「ブタ増体量に及ぼす暑熱耐性と FGF21 及び PPAR α の相関解析」
齋藤亮太 (自然科学研究科 生命食料科学専攻 生物資源科学コース M1)
- ⑥ 「平成 30 年産米の作柄に影響した要因と猛暑下における穂肥・水管理対応—現場事例—」
星豊一¹・井上大輔²・森駿平²・高橋のどか²・内山大地²・杉本義孝² (¹FC 企画交流部、²JA 越後ながおか)
- ⑦ ミズナラにおける萌芽枝形成と抑制芽との関係」
平方広大¹・本間航介² (¹自然科学研究科環境科学専攻流域環境学コース M1、²FC 森林生態部)

2 地域連携・支援・交流

(1) 五泉市との連携推進

- ・五泉市連携検討会第 1 回 (9 月 27 日、五泉市福社会館、山田)

(2) 県内農業高校との懇談会

- ・平成 30 年度新潟県高等学校長協会農業・水産部会との教育懇談会 (8 月 29 日、ときめいと、山田)

(3) 企業等との連携

- ・新潟清酒学校第 32 回卒業式 (6 月 8 日、新潟市「湖畔」、星)
- ・新潟清酒学校第 35 回入学式・合宿講義 (7 月 11 日、新潟市「湖畔」、星)
- ・酒造好適米原料米対策委員会 (10 月 18 日、県酒造会館、星)

(4) 県・市との連携

- ・ごせん桜工房竣工式 (4 月 5 日、ごせん桜工房、山田)
- ・五泉市との共同事業打ち合わせ (5 月 23 日、山田)
- ・「にいがた夢農業・人づくり事業」連絡会議 (4 月 25 日、12 月 13 日、山田)
- ・「にいがた夢農業・人づくり事業」打ち合わせ (5 月 16 日、星)
- ・「にいがた夢農業・人づくり事業・第 1 回共通講座」(9 月 18、21 日、ライブラリーホール、山田、板野)
- ・「にいがた夢農業・人づくり事業・共通講座シンポジウム」(10 月 31 日、ライブラリーホール、山田、板野、星)

- ・平成 30 年度新潟県高等学校長協会農業・水産部会との教育懇談会（8 月 29 日、ときめいと、山田）
- ・北信越畜産学会新潟県分会（3 月 18 日、C110、山田、板野）

(5) 地域支援（講演要請等）

- ・平成 30 年度 JA しおざわ農家組合長会議 講演（4 月 11 日、JA しおざわ、農家組合長・関係機関 130 名、星）
- ・2018 にいがたワーク&ライフフォーラム in 上越 講演（「種子法廃止」と食の安全・安心を考える）（10 月 13 日、上越市、消費者・農業者・農業団体等 50 名、星）
- ・平成 30 年度「越淡麗」下越西支部栽培研究会講演（1 月 24 日、新潟市「プラスサード」、農業者・酒造メーカー等 27 名、星）
- ・JICA 草の根技術協力事業「黒竜江省綏化市食の安全と環境対策事業」平成 30 年度報告・検討会（1 月 25 日、韓・星）

3 共同研究・プロジェクト研究の企画・推進

(1) 試験研究機関等との連携打ち合わせ

- ・県農業総合研究所園芸研究センター（5 月 21 日、山田・板野・星）
- ・県農業総合研究所食品研究センター（5 月 25 日、山田・板野・星）
- ・新潟県農業総合研究所成果発表会（6 月 27 日、アオーレ長岡、星）
- ・新潟県庁農林水産部・農地部（7 月 9 日、末吉・山田・星）
- ・新潟県農林水産部農業総務課政策室（7 月 26 日、高橋・星）
- ・新潟県庁農林水産部（10 月 24 日、11 月 20 日、山田・星）
- ・新潟市農業活性化研究センター事業推進会議（2 月 6 日、星）

(2) 平成 30 年度県内農林業試験研究機関研究調整担当者等情報交換会（第 22 回）

県内の農林業試験研究機関の相互連携と共同研究をめざし開催した。

- 開催日 平成 30 年 7 月 2 日（月）14:00～17:00
- 場 所 新潟大学農学部「大会議室」
- 主 催 フィールド科学教育研究センター
- 参集機関 長岡技術科学大学生物系、新潟薬科大学応用生命科学部、新潟食料農業大学、（国立研究開発法人）中央農業研究センター北陸研究拠点、新潟県農業総合研究所、新潟県森林研究所、新潟市農業活性化研究センター、新潟大学農学部・附属フィールド科学教育研究センターの各所属長・研究調整担当 15 名

○会議の概要

- ①新たな動きの紹介
- ②平成 29 年度主要研究成果
- ③平成 30 年度新規主要研究課題および公募型研究、競争的資金等
- ④情報交換

- ア 「新潟食料農業大学」の概要（新潟食料農業大）
- イ 中央農研が育成した水稻新品種の特性について（中央農研セ北陸研究拠点）
- ウ 森林研究所試験研究成果発表会について（新潟森林研）
- エ 平成 30 年度「にいがた夢農業・人づくり事業」共通講座シポジウムについて（新大農 FC）
- オ マッチングフォーラムの開催（農研機構 中央農研セ北陸研究拠点）

4 教育関連

- ・基礎農力WG（5月29日、A110、山田）
- ・基礎農力、「にいがた夢農業・人づくり事業・第1回共通講座」（9月18、21日、ライブラリーホール、山田、板野）

5 広報関連

(1) 年報17号の発行（11月）

(2) 企画交流部会の開催（3回）

第1回：4月26日15:00～16:00 B216

- ・平成30年度企画交流部事業年間計画について
- ・新潟県連携事業「にいがた夢農業・人づくり事業共通講座シンポジウム」（第15回FCシンポジウム）について

第2回：9月26日15:00～16:00 B205

- ・平成30年度第5回「にいがた夢農業・人づくり事業共通講座シンポジウム」（第15回FCシンポジウム）開催計画について
- ・「2018年度FC成果発表会」について

第3回：3月20日（水）11:00～12:00 A110

- ・平成30年度事業概要・予算中間報告
- ・平成31年度事業計画・予算（案）について
- ・平成31年度企画交流部長が指名する協力教員の指名について

耕地生産部

1. 農産物生産

<村松ステーション>

耕種部門では、4.5ha の圃場に、大豆、青大豆、ジャガイモ、スイカ、大根等を栽培した。今年度の生産概要は巻末の資料のとおりである。

畜産部門では、4.51ha の草地で牧草を栽培し生草での総収量は 162,567kg であった。乳牛の飼養頭数は 26 頭で（経産牛 16 頭、育成牛 8 頭）、年間の生乳出荷量は 89,228kg であった。新潟県安全安心ブランド生産農場「クリーンミルク」の認定が継続された。アイス製造業者と地元生産者との連携で、平成 25 年 4 月から開始した、FC の生乳でアイスマルク（新大村松農場の生乳で作ったアイス）の製造と販売を継続した。中央酪農会議の地域交流牧場全国連絡会に継続して加盟し、同酪農教育ファームとして継続して認証された。

<新通ステーション>

水稻は、コシヒカリを 158.5a、こしいぶきを 17.7a、越淡麗（酒米）を 19a 栽培した。新潟県のコシヒカリの作況指数は 95 で、「コシヒカリ」、「こしいぶき」、「越淡麗」とも全量 1 等米であった。生産概要は巻末の資料のとおりである。

2. 全国大学農場協議会等への参加

1) 関東甲信越地域協議会

① 関東甲信越農場協議会役員会 3/20 明治大学

総会および研究集会 8/7-8 東京農大 山田・濱田

研究発表「新潟大学農場におけるラジコンヘリを利用した簡易リモートセンシングの現状と可能性 第 2 報」濱田ら

2) 全国協議会

① 春季協議会 5/10~11（東京） 山田・塚野 2 名参加 教授会報告

② 秋季協議会 9/12~14（明治大学担当）高橋・佐藤俊 2 名参加 教授会報告

3. 職員個別研修関係

平成 30 年度 酪農教育ファームスキルアップ研修会 11/9 仙台市 西川

平成 30 年度 畜産安心安全ブランド農場研修会 2/20 新潟市 田中

4. 成果報告

① FC 成果発表会「米・食味分析鑑定コンクールについて」高橋 12/21

② 耕地生産部報告検討会ー作物など生産力と作業調査ー 2/27（村松ステーション）

③ 耕地生産部研究成果発表会 2/27（村松ステーション）

森林生態部

平成30年度運営概要

平成30年度は文科省教育関係共同利用拠点2期目の2年度として、受け入れ大学の拡大を図り、実習内容の充実に努めた。

1. 文部科学省教育関係共同利用拠点（演習林）

本年度は教育関係共同利用拠点2期目の2年度として実習を量、質ともに充実させた。

実習の充実 : 16回のべ700人の参加
さくらサイエンス事業で、中国・サハリン熱帯植物園の大学院生の実習を行った。3月に森林学会後の森林教育関係の自主エクスカージョンとして、学生を含む研究者らの実習を行った。

他施設との共同 : 理学部附属臨海実験所および朱鷺・自然再生学研究センター

情報発信 : ニュースレターの発行（11号-13号）

ホームページやブログの更新

佐渡ゼミ : 共同実習で来島された大学等の教職員を講師として、5回開催した。

2. 運営管理業務

今年度末に期限付き助教ポストを、期限なしの准教授ポストに替えたことによって、スタッフの充実が図られた。平成31年度に演習林内へのバイオトイレの設置及び男女浴室のシャワー室設置が予算化された。演習林における実習が円滑に実施されるように、年間を通して林道の維持管理を行った。また、間伐等人工林の施業を実施した。

3. 研究業務

演習林内のスギ天然林、樹木の調査や災害・復興科学研究所と共同で行っている気象観測を引き続き行った。環境省のモニタリングサイト1000事業やJaLTER（長期生態研究）との連携をはかり森林の長期モニタリング研究を全国のサイトと共同して実施した。佐渡3施設の統合に向けた共同研究を若手教員の中で実施した。また、オオミスミソウの調査を京都大学と共同で行った。これらの結果、演習林を利用した論文が国際誌に掲載された。

4. 地域貢献

佐渡ジオパークガイドやトキガイド養成講座の講師として協力した。佐渡市主催の子ども環境学習会に協力し、演習林で林業体験や木の工作を実施した。新穂小学校でも、5年生を対象に、森林に関する授業を実施した。また、演習林でどのような教育研究を行っているかを地域の住民に知ってもらうために、山開きの開催や外海府地域のイベントに参加した。

5. 木工品生産

演習林から生産された木材による座卓、まな板、箸置き、印鑑立て、ぐい呑みなどの小物を生産し販売した。尾畑酒造の「学校蔵プロジェクト」に天然スギ材を提供して、リキュールの材料として利用してもらった。また、ホテルファミリーオ佐渡相川から注文を受けてキーホルダーの作成を行った。

6. 佐渡3施設統合に向けて

4月から佐渡3施設の統合に向けた準備委員会の会合を行い、方向性を検討した。2019年2月に新センター開所目前シンポジウムを大学で開催した。